

写真展

令和5年度 史跡・文化財めぐり

第303回 下寺尾の史跡と遺跡を訪ねる

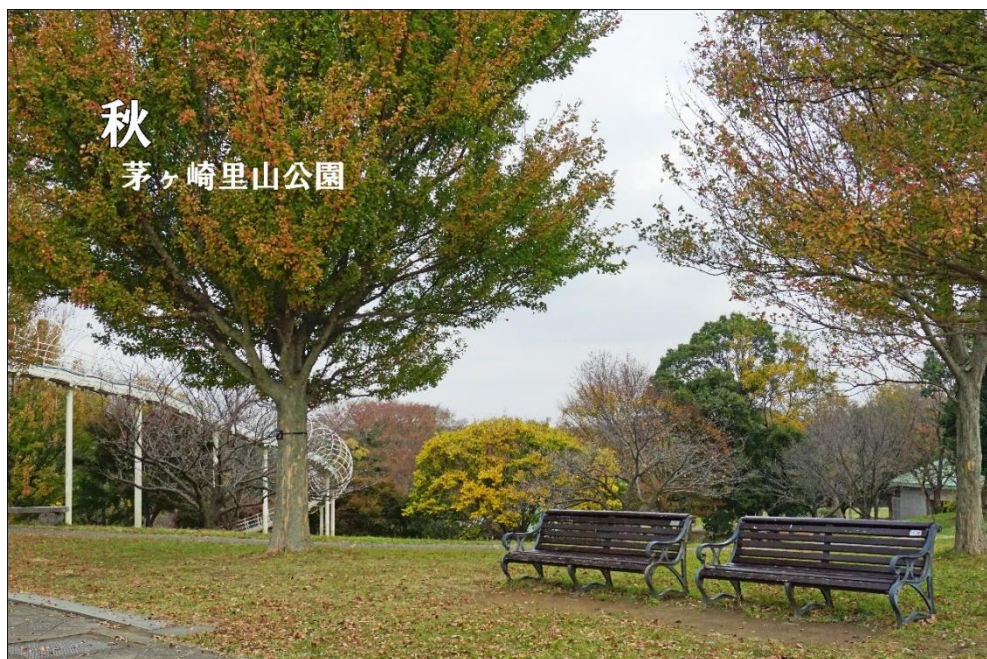
第304回 伊勢原市の丸山城址と太田道灌などの史跡を訪ねる

相模川河口付近の野鳥たち

市内北部丘陵地の野鳥たち

柳島海岸から見た風景

第50回郷土芸能大会



2023年10月

27日(金) 13:00~16:00

28日(土) 9:30~16:00

29日(日) 9:30~15:00

茅ヶ崎市民文化会館 A展示室

この写真展は、(公財)茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団主催、茅ヶ崎市共催の「茅ヶ崎、みんなのアートフェス2023」参加事業です。

茅ヶ崎郷土会

ごあいさつ

茅ヶ崎郷土会の写真展にご来場いただきありがとうございます。

令和4年度の史跡めぐり、相模川河口付近と北部丘陵の野鳥、柳島海岸風景、昨年度の郷土芸能大会の写真を展示いたします。

史跡めぐりは、市内下寺尾と伊勢原市糟屋を訪ねた様子です。

相模川河口で見られる野鳥に加え、芹沢などの丘陵で見られる鳥類を加えました。

柳島海岸の風景は、会員がほぼ毎日撮影した写真の中から選びました。

茅ヶ崎郷土会の活動は当会のホームページでもご覧頂けます。スマートフォンやパソコンなどで「茅ヶ崎郷土会」と入力し、検索してご覧ください。

会員募集中です。皆様方の興味や趣味を茅ヶ崎郷土会で生かしませんか。

令和5年10月27日

茅ヶ崎郷土会

令和5年度の史跡・文化財めぐり 展示写真

1 第303回 下寺尾の史跡と遺跡を訪ねる

令和4年12月10日（土）、市内下寺尾の高座郡衙や古代寺院跡のほか史跡、石仏、白峰寺を訪ねました。

下寺尾遺跡の各所は、この事業を共催している「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」に説明してもらいました。

1-① 下寺尾遺跡の説明を聞く

下寺尾廃寺（七堂伽藍）、高座郡衙（たかくらぐんが）、祭祀場、川津（かわづ）、縄文時代の西方貝塚、弥生時代の西方遺跡（二重の環濠集落）など、全体の概要の説明の様子です。

1-③ 西方貝塚の前で

7000～5500年むかし（縄文時代前期）の住居址の中に残っていたヤマトシジミなどを主体とするの貝塚で、昭和38年（1963）に発掘調査されています。

1-④ 七堂伽藍跡の碑

この地は古代の寺院跡と伝えられていて、後世の調査を望み、昭和32年（1957）に関係者や研究者によって建てられました。

1-⑤ 下寺尾廃寺（七堂伽藍跡）にて

昭和53年（1978）から発掘調査が続けられ、講堂、塀、瓦葺きの金堂などの跡が見つかっています。7世紀末～8世紀前半に造られ、11世紀まで続いたと考えられています。国指定の史跡になっています。

1-⑥ ⑦ 下寺尾に残る各遺跡の説明板

向かって左側に古代の郡衙や廃寺の跡、右側に弥生時代中期（2000年前）のムラ（環濠集落）の跡の位置を表して、現地に立ててある説明板。環濠は二重にムラを取り巻いています。

1-⑧-1～4 下寺尾のサイノカミ

下寺尾には北ヶ谷（きたげやと）・池端・原・郷中の4つの集落があり、それぞれでサイノカミ（道祖神）を祭っています。

北ヶ谷のサイノカミは安永8年(1779)、池端は天明6年(1786)、原は文化2年(1805)、郷中は安政2年(1855)に建てられています。サイノカミを建てること、北ヶ谷から他の集落に広がったことが分かります。また、その姿は双体像から柱状のものに変化しています。

1-⑫ おもよ井戸の跡

辺りが刈り払われて面影はありませんが、昔はうっそうとした中に清水が湧く井戸がありました。むし歯に苦しむおもよという娘が井戸に身を投げたそうです。歯が痛むときはその井戸の水でうがいをすると言われている。不思議なことに、海老名市大谷(今は澗井戸)と綾瀬市早川に「おも井戸」という井戸があります。

1-⑬ 十二天社床下の石棒

寒川方面に向かう県道の北側に十二天社があります。東西南北と東北・東南・西南・西北の八方向と天・地・月・日の四方向を守る仏教の神の十二天神を祭ったものです。その床下にどのようないわれがあるのか分かりませんが、縄文時代の石棒が立ててあります。

1-⑭-1 白峰寺入口に立つ禁盃石

「葷酒、山門に入るを許さず」と正面に彫ってあります。右側面には「白峰寺11世の梅薫和尚が江戸に托鉢し、大乘経を千部供養したのでこの禁盃石を建て、中に観音経を納め、天下泰平国家安全などを祈る。安永3年(1774)、住職は12世智叡(ちとん)和尚、建立は梅薫」とあります。

梅薫和尚の江戸布教のおかげで江戸市中に白峰寺の信者が生まれ、天明元年(1781)に江戸宇田川町の花屋治郎兵衛が玻璃(ガラス)の白衣観音を白峰寺に奉納しました。白衣観音は関東大震災の折に消滅しました。

1-⑭-2 下寺尾村の領主松平氏と村人によって造られた白峰寺の階段

境内に昇る石段です。

1-⑭-3 石段の四隅にある石柱

四隅に小さな石柱があり、向かって上段右側には「安永4年(1775)」、上段左側には「金三両御開基(領主松平氏のこと)／金二両惣檀家」、下段右側には「現住大温智叡」、下段左側には「新造立／門外石坂／殿前雨落／同水鉢」とあります。前に紹介した禁盃石に引き続き造られたものです。時の住職も同じく12代智叡和尚です。

石段と同時に本堂前に「雨落」と「水鉢(手水鉢)」も造られ、その資金を領主松平氏と檀家で出し合っています。「水鉢」は今も同じところに据えています。

1-⑭-4 伊予の松山藩主 松平国貞書の扁額「円通」

観音菩薩を信仰していた伊予(愛媛県)松山藩主の定国卿も、天明元年(1781)に「円通」の書を奉納したと白峰寺では伝えていて寺宝とされています。同年3月7日には観音堂が完成しています。

1-⑭-5 白衣観音の石柱と、再建された地藏菩薩など

白峰寺の参道の入り口に、覆い屋の中にあります。石柱はかなり傷んでいますが天明2年(1782)に江戸の芝源助町の伊勢屋孫兵衛が建てたもので、「ここが白衣観音を祭る白峰寺だよ」と示しています。

その隣にある歌碑には「里まもる観音様も江戸育ち包む白衣も子等安かれと」とあります。

石柱の向かって右にある地蔵尊は、昔は県道の南側にあったのですが、破損していたので、昭和53年に再建されました。屋外の歌碑には「朝霧に深き緑の白峯の後世守り給いし地蔵尊」とあります。

1-⑭-6 下寺尾村領主 松平氏の系図

松平家は、江戸時代の下寺尾村の領主の一人で、初代忠政が、天正18年(1590)に村内の300石を宛(あて)がわれたことで下寺尾村との関係が出来ました。

1-⑭-7 下寺尾村の領主 松平氏一族の墓地

本堂の脇を登っていくと松平氏一族の墓石があります。正面の7基が、右から、8代常唯(つねただ)から、10代祖英~12代勘義(すけよし)合葬のものです。中央は3代重次(重継)の墓石です。

『新編相模国風土記稿』に「白峰寺の開基は松平隼人正重継なり。慶長12年(1607)当村に生まる。始め七十郎と称す。また孫太夫に改む。寛文11年(1671)6月3日卒。年64歳。境内に葬り、月照院白峯道皓と諡(おくりな)す。開山は我国(がこく)、天文13年(1544)9月23日卒。按ずるに、開山我国が卒年を去ることはなほだ遠し、重継は当寺を中興せし人にや。」とあります。

(注) 白峰寺に関する説明は臼井孝之・臼井洋一郎著『白峰寺 寺誌』(平成11年白峰寺刊)によるところ大です。

2 第304回 伊勢原市の丸山城址と

太田道灌などの史跡を訪ねる

令和5年3月11日(土)、伊勢原市の下糟屋の太田道灌の遺跡、高部屋神社、丸山城址と、上糟屋の道灌塚、上糟屋神社などを訪ねました。

2-①-1 下糟屋 大慈寺の太田道灌墓地(1)

太田道灌の墓が、下糟屋と上糟屋それぞれあります。下糟屋の墓は近くの大慈寺が管理していて、「鎌倉にあった大慈寺を道灌が此の地に移した。道灌は中興開基」と『新編相模国風土記稿』下糟屋村の項にあります。

2-①-2 下糟屋 大慈寺の太田道灌墓地(2)

石の柵で囲まれた中に、宝篋印塔や五輪塔の残欠が並んでいて、道灌の墓と伝えられています。

2-①-3 下糟屋 江戸時代末の道灌墓

江戸時代末期に作られた『新編相模国風土記稿』に道灌の墓地の図が載っています。その説明に「五輪塔三基が並んでいて、高さ4尺(1.2m)の中央の塔がそれだ」とありますが、今はその五輪塔は見当たりません。

2-②-1 普濟寺

臨濟宗、山号は千秋山。多くの庭木に囲まれた境内にひとときわ高い石塔が建っています。

2-②-2 普濟寺の多宝塔

建立者は高部屋神社の別当寺だった神宮寺14代の文道玄宗和尚。天保9年(1838)に高部屋神社に立てられましたが、神仏分離のときに神宮寺は廃寺となり、塔は現地に移されました。文道玄宗は幕命で北海道の現厚岸町の国泰寺の住

職として7年間勤め、地元のために多宝塔を建てようとした。しかし帰国のためになかなか、故地の下糟屋で実現しました。北海道の賛同者約700人の名前が刻されているそうです。『史跡と文化財のまち』

2-③-1 高部屋神社

平安時代の「延喜式神明帳」に載る相模十三社の一つとされています。祭神は応神天皇、若宮、神功皇后、姫宮、住吉大神などで、昔は八幡神社と呼ばれていたようです。拝殿は江戸時代末の建築で、あえて藁葺きの屋根にしてあるのだそうです。

2-③-2 拝殿の彫刻

拝殿の向拝の彫刻は浦島太郎と竜宮城の乙姫様となっています。海に関係する絵柄になっているのは、海を渡って朝鮮を攻めた神功皇后の神話に基づいていると思われる。

2-③-3 本殿

祭神を祭る本殿が拝殿と切り離されているのは珍しいことです。関東大震災で倒壊後、古材で再建し、国の有形登録文化財になっています。欄干の宝珠に「正保4(1646)」とあるのは倒壊前の建物の建設年と考えられているそうです。

2-③-4 至徳3年(1386)銘の銅鐘(県指定重要文化祭)

銘文に「八幡社が糟屋庄の惣社」と刻されています。

2-③-5 狛犬 吽像

神社の本殿前にあり、向かって右が阿像(あぞう)、左が吽像(うんぞう)です。台座に享保12年(1727)年とあり、県内の狛犬では古いものに属します。堅い石質を使ってあり、全体に装飾が少なく、狛犬は変わった表情をしています。ちなみに茅ヶ崎市では菱沼の八王子神社にある元治元年(1864)の狛犬が最古です。

2-④-1 丸山城址と高部屋神社

高部屋神社の北側に国道246号が通っていて、国道に面し、さらに北側に丸山城址が広がっています。両者の間にある国道は神社と城址があった台地を切り通して作られています。神社と城址は国道をまたいで架かっている歩道橋で結ばれていて、写真はそこから西を向いて撮影したものです。

2-④-2 城址の主曲輪(しゅくるわ)

『風土記稿』下糟屋には、「頼朝と頼家に仕えた糟屋有季(かすやありすえ)の居跡と伝える」とあります。昭和60年から何回かの発掘調査がおこなわれ、城があったのは室町時代後半と判明しました。また、同じ頃、糟屋の地に上杉定正の屋敷があって、その屋敷跡ではないかという考えもあるそうです。

2-④-3 土塁と横矢掛かり、切り岸、横堀

広い主曲輪を取り囲んで土塁の一部、堀、切り岸などが発掘調査されています。写真は現地に立つ説明板の複写で、それらの配置がよく分かります。横矢掛かりとは城壁の一部を折り曲げた作りで、外から攻める敵に効果的に立ち向かうためのしつらえです。

2-④-4 土塁

写真は、前の説明板にある「土塁2」です。切り岸や堀を作ったときの土を積んで作ります。攻めてくる敵を防ぐしつらえです。

2-⑤-1 上糟屋 洞昌院の道灌墓地

上糟屋にも太田道灌の墓所があり、洞昌院が管理しています。中興開基は道灌と伝えられています。

道灌は相模国の守護であった扇谷上杉定正に仕えていましたが、故あって糟屋にあった定正の屋敷で主の定正に暗殺され、洞昌院で荼毘に付されたといわれています。

なお、糟屋にあったという上杉定正の屋敷の確たる位置はまだ突き止められていません。

2-⑤-2 江戸時代末の道灌の墓

『風土記稿』には道灌の墓所の挿絵が載っています。2本の松の大木の間には道灌の墓とされる五輪塔が描かれています。しかし、現在は宝篋印塔が立てられています。

また松の大木は切り倒されて、写真にはその切り株がトタン板で覆われている様子が写っています。

2-⑥ 上糟屋神社

道灌塚の近くにあります。『風土記稿』には「良弁僧正の勧請と伝う」とありますが伝説でしょう。『史跡と文化財のまち』に「上杉館の鎮守と伝わる。江戸期には山王権現、明治に日枝神社、その後周辺の神社を合祀して上糟屋神社と名を変えた」と記してあります。

以上で今回のめぐりを終え、現地で昔から上杉館の場所と伝わる地を見に行きました。そこでは国道建設や農地改良に伴う発掘調査がおこなわれていましたが、上杉館と思われる成果は出ていないとのことでした。

執筆にあたり次の書籍を参照しました。

『新編相模国風土記稿』 雄山閣版2巻 上、下糟屋村・上糟屋村の項
『史跡と文化財のまち いせはら』伊勢原市教育委員会刊

郷土会にはいきませんか

郷土史、名所・旧跡などが好きな人たちの集まりです

○市内、市外の史跡文化財めぐり ○郷土史の勉強会 ○年間3回、会報『郷土ちがさき』を発行 ○年会費 1,500円 ○設立は昭和28(1953)年4月、会員は現在約70名。

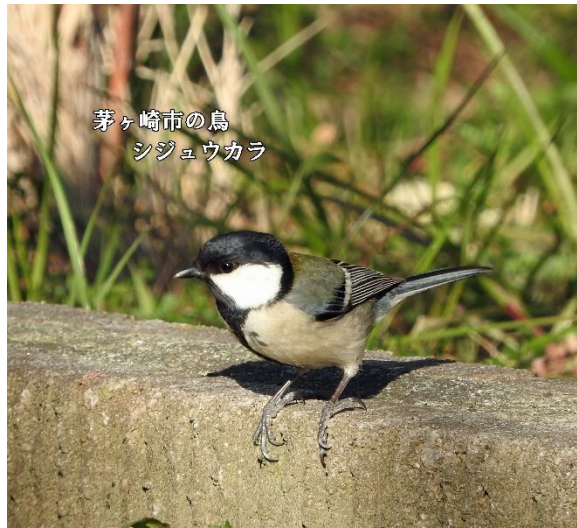
問い合わせ 〒253-0008 茅ヶ崎市芹沢2132-2 平野文明 TEL 0467-53-2453

-----<切り取り線>-----

入会申し込み書

(ふりがな) 氏名		
住所	〒 _____	
電話番号	(固定)	(携帯)
メールアドレス		
申込日	_____年 _____月 _____日	_____年度会費を添えて申し込みます。

3 相模川河口付近の野鳥たち



長年、柳島を中心に野鳥を撮影している杉山 全会員の作品です。しかし、最近では飛来する野鳥の種類が減っていて、撮影がままならないそうです。

No.	鳥の名	no.	鳥の名	no.	鳥の名	no.	鳥の名
1	アオサギ	26	アオバト	51	ウミアイサ	76	キジ
2	アマサギ	27	キジバト	52	セグロカモメ	77	コゲラ
3	クロサギ	28	ドバト	53	ウミネコ	78	アリスイ
4	コサギ	29	イカルチドリ	54	ユリカモメ	79	ツバメ
5	ゴイサギ	30	コチドリ	55	カワセミ	80	イワツバメ
6	ササゴイ	31	シロチドリ	56	カワラヒワ	81	コシアカツバメ
7	ダイサギ	32	メダイチドリ	57	ヒヨドリ	82	スズメ
8	チュウサギ	33	ダイセン	58	ムクドリ	83	ヨシキリ
9	アカエリヒレアシシギ	34	ミヤコドリ	59	エゾヒタキ	84	キセキレイ
10	イソシギ	35	ミズナギドリ	60	ジョウビタキ	85	セグロセキレイ
11	エリマキシギ	36	ヒクイナ	61	ノビタキ	86	ハクセキレイ
12	オオソリハシシギ	37	バン	62	アカハラ	87	ビンズイ
13	キアシシギ	38	オオバン	63	イソヒヨドリ	88	ヒバリ
14	キョウジョシギ	39	オカヨシガモ	64	ツグミ	89	ケアシノスリ
15	ソリハシシギ	40	オナガガモ	65	ホオジロ	90	チョウゲンボウ
16	タシギ	41	カルガモ	66	アオジ	91	トビ
17	チュウシャクシギ	42	キンクロハジロ	67	カシラダカ	92	ハヤブサ
18	ハマシギ	43	クロガモ	68	シジュウカラ	93	ミサゴ
19	ミユビシギ	44	コガモ	69	ウグイス	94	モズ
20	ハウロクシギ	45	スズガモ	70	ヤブサメ	95	ガビチョウ
21	トウネン	46	ハシビロガモ	71	セッカ	96	ウ
22	カイツブリ	47	ヒドリガモ	72	メジロ	97	ダイセン
23	カンムリカイツブリ	48	ホオジロガモ	73	エナガ	98	ヒバリ
24	ハジロカイツブリ	49	ホシハジロ	74	オナガ		
25	ミミカイツブリ	50	マガモ	75	カラス		

4 市内北部丘陵地の野鳥たち

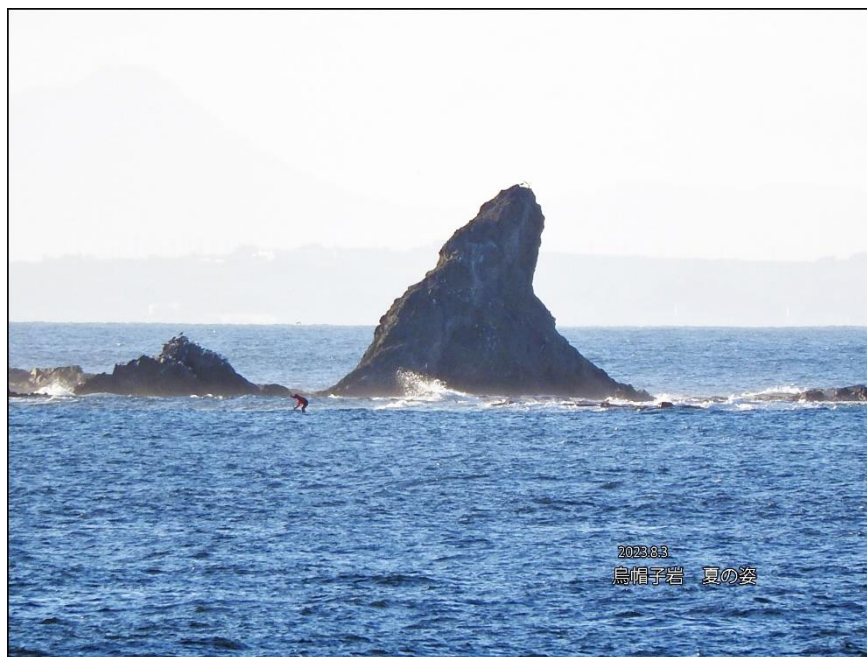


市北部の丘陵で野鳥観察を続けている朝戸夕子さん撮影の画像です。海岸部の野鳥とは違った種類がとらえられています。

No.	野鳥の名	撮影日	No.	野鳥の名	撮影日
1	アオジ	2019.02.27	16	シジュウカラ	2022.05.11
2	アカハラ	2021.12.20	17	シマゴマ	2022.10.17
3	アトリ	2019.04.05	18	チョウゲンボウ	2021.07.13
4	アリスイ	2020.02.25	19	ツツドリ	2022.10.15
5	ウグイス	2019.05.07	20	トモエガモ	2019.12.11
6	エゾビタキ	2022.11.10	21	トラツグミ	2020.12.07
7	オオヨシキリ	2023.07.28	22	ノビタキ	2020.12.06
8	オオルリ	2020.05.02	23	ヒレンジャク	2022.03.22
9	カイツブリ	2023.08.04	24	フクロウ	2022.05.20
10	キビタキ	2021.05.14	25	ホオアカ	2019.04.01
11	クロジ	2021.01.22	26	ホトトギス	2021.06.21
12	コアオアシシギ	2022.09.28	27	ミソサザイ	2022.02.23
13	コジュケイ	2021.04.13	28	メボソムシクイ	2022.05.30
14	サンコウチョウ	2023.06.21	29	リュウキュウ サンショウクイ	2022.02.04
15	サンコウチョウの雛	2023.07.25	30	ルリビタキ	2023.01.17

5 柳島海岸から見た風景

ほぼ毎日柳島の海岸に出てラジオ体操と写真撮影を欠かさない前田照勝会員の撮影です。昨年の文化祭終了後から今年の10月までの数百枚の中から選びました。画像の選定と編集は平野文明会員がおこないました。



No.	タイトル	撮影日	No.	タイトル	撮影日
1	令和5年の初日の出	2023.01.01	13	初夏の雲	2023.05.06
2	初日の出を待つ	2023.01.01	14	初秋の雲	2023.09.12
3	烏帽子岩 夏の姿	2023.08.03	15	雪景色 富士山頂	2022.12.15
4	烏帽子岩と漁船	2022.11.06	16	入り日の富士山	2023.09.07
5	烏帽子岩 夜明け	2022.12.19	17	二子山と駒ヶ岳	2023.02.16
6	烏帽子岩 天使のはしご	2022.12.18	18	満月の箱根連山	2023.04.08
7	烏帽子岩 押し寄せる波	2023.04.08	19	波元 柳島から南湖	2023.02.06
8	烏帽子岩 波頭の向こう	2022.12.19	20	サーフィン	2022.12.20
9	烏帽子岩 釣り	2022.11.03	21	ハマヒルガオ	2023.04.25
10	夜明け 遠くに江ノ島	2022.11.29	22	チガヤの原	2023.05.16
11	虹	2022.12.18	23	海岸浸食	2023.04.08
12	夜明けの雲	2023.09.11	24	海岸浸食 復旧工事終了	2023.06.18

6 第50回 郷土芸能大会 (2022. 11. 27)

コロナ禍で中止されていた芸能大会が平成4年11月27日におこなわれました。その舞台写真を前田照勝会員と平野文明会員が撮影した写真から選びました。すばらしい郷土芸能が継承されていることを喜んでいただければ幸いです。



- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 茅ヶ崎の民話 「弁慶塚物語」 | 茅ヶ崎民話の会 |
| 2 柳島御座敷甚句 | 柳島エンコロ節保存会 |
| 3 圓藏馬鹿おどり | 圓藏祭囃子保存会・岡崎部会 |
| 4 芹沢焼米搗唄 | 芹沢焼米搗唄保存会 |
| 5 上赤羽根甚句 | 上赤羽根太鼓保存会 |
| 6 南湖麦打歌 | 南湖麦打歌保存会 |
| 7 南湖餅搗唄 | 南湖餅搗唄保存会 |
| 8 上赤羽根祭囃子 | 上赤羽根太鼓保存会 |
| 9 芹沢ササラ盆唄 | 芹沢焼米搗唄保存会 |
| 10 圓藏祭囃子 | 圓藏祭囃子保存会 |
| 11 柳島大漁船上げ歌 | 中島中学校1年生・柳島大漁船上げ歌交友会 |
| 12 柳島エンコロ節 | 中島中学校2年生・柳島エンコロ節保存会 |

茅ヶ崎郷土会令和5年度 これからの予定

○史跡・文化財めぐり

- ・第307回 12月9日(土) 大和市の深見城址などを歩く
- ・第308回 令和6年3月9日(土) 市内の東海道を歩く(1)小和田・菱沼地区

○郷土の歴史民俗勉強会(原則第3火の午後、図書館第1会議室)

- ・11月21日(火) 13:30～「大和市深見城址他の歴史と史跡と文化財」
- ・令和6年2月20日(火) 13:30～「小和田・菱沼の歴史と史跡と文化財」

○第51回郷土芸能大会

- ・11月26日(日) 13:00開演 茅ヶ崎市民文化会館小ホール

○郷土会報「郷土ちがさき」の発行

- ・159号 令和6年1月1日発行予定